

# トウモロコシの生育ステージ

## (1) 栄養生長期

生育ステージ	生育ステージの概要	栽培管理ポイント
出芽揃い ~2-3葉期	播種後、種子から先ず幼根が発生し、その後しょう葉(先端が丸みを帯びた最初の葉、本葉としては数えない)が地上部に現れる。この時期が出芽期となる。播種から出芽までの日数は通常は10日~20日位だが、温度や水分等の生育条件で大きく異なる。	除草剤の土壌処理は基本的に播種後出芽前の早い時期に行う。出芽がばらついたり、通常より大きく遅れている場合には種子の発芽不良、肥料焼け等の障害の可能性がある、土中の種子の状況を確認した方が良い。この時期に低温等の生育条件の悪い日が続くと、葉色が薄い、あるいは紫色を呈することがある。



↑  
幼根発生

↑  
出芽

↑  
2葉期(本葉)

生育ステージ	生育ステージの概要	栽培管理ポイント
4-5葉期	種子からの従属栄養から独立栄養に移行する時期。種子根に代わり永久根が発達し始める。生長点は地表より下にあるので、霜害で地上部が枯死しても再生する可能性がある。地上部の草高は20cm位に達する。	生育処理除草剤の散布適期。この時期より処理期が遅れると雑草との競合によるマイナスの影響が増す。追肥を行うにも適期。ネキリムシやハリガネムシによる食害、苗立ち枯れ病による病害が発生する時期なので注意を怠らない。



第4葉(本葉)

しょう葉

永久根

種子根

生育ステージ	生育ステージの概要	栽培管理ポイント
7-8葉期	この時期からトウモロコシは急激な生育を始める。生長点は地上部に達し、後の雄穂や雌穂となる幼穂が形成される。このステージで低温や養分欠乏に遭遇すると雌穂形成に影響が大きい。雌穂の粒列数は次の9-10葉期頃までに決定される。	この時期に地表部近くにある生長点付近は生育が特に速いために軟弱で、まれに強風による折損が生じる場合がある。またこの時期は生長点付近を的にした虫害が最も拡大する時期なので注意が必要。急激な生育に伴って養分吸収量も急増する。追肥はこの時期までに終わることで、最も効果を発揮する。



雌穂

雄穂・生長点



生育ステージ	生育ステージの概要	栽培管理ポイント
9-10葉期 ～雄穂抽出	この時期のトウモロコシは雄穂抽出頃まで急激な生育を続ける。この間に茎葉のボリュームや草丈、また基本的な雌穂の大きさ、それに伴う子実数も決まる。	急激な生育によりアーリーロッキングと呼ばれる倒伏が発生する場合がある。この時期の倒伏は再び起き上がる率が高いが、開花期に近い程、影響が残りやすい。播種が遅い場合は特にこの種の倒伏の危険が高いので、過度の密植は避けた方が良い。すす紋病等の葉の病害の感染が始まる。病斑が開花前から確認された場合には病害が広がる危険性が高い。

\* 資料中の写真は一部を除いてCorn Growth and Development(Iowa State University Extension 2011)より出典しています。